

1. 次の文は、検定員制度の内容について記載したものです。()内に適切な語句を、語群より選び記しなさい。

《検定員制度の役割》

技能力を高める技術指向としての「(①)」や、指導者としての活動を目指す「(②)」において、その検定に当たる運営の総ては(③)の双肩にかかっていると云って過言ではありません。なぜなら、タイムという絶対値によって優劣を争う(④)と違い、スキーヤーの滑りの(⑤)(すなわち技能の到達度や習熟度)を観点として評価するテストだからです。

《検定員制度の必要性》

専門知識が必要だからこそ「(⑥)」と「(⑦)」を区分し、スキー検定員クリニックにおいて検定に関する専門的な(⑧)の向上や(⑨)についての理解を研鑽しています。指導者としての資質の向上、豊かな人間性を養い、スキー技術の(⑩)を養うためにも検定員資格を持つことが望まれます。

- | | | | | |
|--------|---------|---------|--------|--------|
| ・検定員 | ・技術課題 | ・アルペン競技 | ・検定員資格 | ・評価能力 |
| ・フォーム | ・バッジテスト | ・専門家 | ・技術屋 | ・スキーヤー |
| ・指導者資格 | ・専門的な知識 | ・テクニック | ・質 | ・指導者検定 |

2. 次の内容は級別テスト2級の実技種目と実施要領について記載したものです。下記の表の()に適切な語句を記しなさい。

	実技種目	実施要領
2 級	パラレルターン大回り	公認検定員(講師)が、講習を通し「(②)での移動技術」の回転技術を指導し、運動課題の(③)を評価する。 1 種目最大値×3 種目の(④)ポイント以上を合格とする。 (最大値300ポイントの(⑤)%以上)
	パラレルターン(①)	
	フリー滑降	

3. 公認スキー検定員規定に示されている<資格の停止>、<資格の喪失>の各条文を記しなさい。

- ①資格の停止
②資格の喪失

4. 公認検定員の中で、公認スキーB級検定員が検定できる範囲を4つ記しなさい。

- ①
②
③
④

5. 下記は「検定員制度の内容」について記載したものです。()に適切な語句を、語群

より選び記しなさい。

全日本スキー連盟の目的である“スキースポーツの(①)”を教育本部では「指導」と「検定」を二本柱として普及を図ってきました。スキースポーツをより幅広く、より楽しむための手段として、学ぶという指導の研鑽過程で(②)を確認していくため、また、(③)を高めるためにテストを受け、さらに(④)を図ることを目的としています。

検定の基本理念として、級別テストは、受検するスキーヤーが、自己の技術レベルを知ることによって(⑤)を実感できるテストを目標としています。ジュニアテスト(キッズ・チルドレン)では、子供達が感じるスキーの楽しさや喜びにつながるスキーの楽しさや喜びにつながり、(⑥)や(⑦)を喚起するテストを目指しています。さらには、上級レベルのプライズテストでは、技術志向として(⑧)を目指すことを目標としています。

- | | | | | |
|--------|---------|----------|-------|-------|
| ・自己 | ・挑戦意欲 | ・アスリート | ・学習意欲 | ・観察力 |
| ・普及と振興 | ・進歩の喜び | ・レベルアップ | ・競技力 | ・運動能力 |
| ・発展 | ・オリンピック | ・上達のプロセス | ・継続意欲 | |

6. 下記は、「谷回り」のメカニズムである<重力による落下運動>と<二軸運動意識>について記載したものです。()内に適切な語句を、語群より選び記しなさい。

《重力による落下運動》

スキー板の滑降・回転には、重力による落下運動にその(①)な特徴がある。重力を活用する「谷回り」は、重力によるスキー板の(②)に沿う力(推進させる力)と(③)に沿う力(ターン内側に向かわせる力)から構成される。そして、「谷回り」の回転弧はその重力による落下運動のふたつの力とこれらと(④)に働く抵抗によってコントロールされる。この場合、重力によるスキー板の縦軸に沿う力については、よく理解されていないところである。しかし、あまり理解されてこなかった重力によるスキー板の横軸に沿う力がスキー板の方向を(⑤)に(⑥)に向かわせるところに「谷回り」の真髄がある。つまり「谷回り」は、スキーヤー自信の「(⑦)」で滑降・回転するということであり(⑧)とは対極をなすものであると言える。

《二軸運動意識》

「谷回り」においてスキー板の向きをターン内側に変えていく力は、ターン内側の「内脚(軸)主導」によって導かれる。ターン内側の(⑨)の屈伸及び(⑩)がターン内側へ重心を移動させ、この結果起こる(⑪)によって、スキー板の滑降・回転を生起させることに「なる」。

そしてこれらを円滑に遂行するために、ターン外側の脚は、内側の脚による(⑫)への荷重を基礎に、(⑬)を前方に滑らせなければならない。このときは、ターンによって生じる遠心力が外スキーへの(⑭)を生み、「外脚(軸)主導」が機能することになる。この場合、ターンにおける外スキーの滑走距離は、内スキーよりも(⑮)なる。

これらの「谷回り」における内脚軸と外脚軸のふたつの(⑯)は、それぞれの股関節の運動を中核として、(⑰)に重要な役割を果たす事になる。

- | | | | | | |
|-------|------|--------|-------------|-------|-------|
| ・縦軸 | ・谷側 | ・逆方向 | ・順方向 | ・抜重回旋 | ・根源的 |
| ・力軸 | ・短く | ・長く | ・末端主導 | ・体幹主導 | ・荷重移動 |
| ・外スキー | ・横軸 | ・外旋 | ・受動的荷重 | ・運動軸 | |
| ・骨盤 | ・肩甲骨 | ・ダイレクト | ・フェイスコントロール | | |
| ・間接的 | ・山側 | ・舵とり | ・荷重回旋 | ・股関節 | ・内スキー |